



**編集・発行**  
地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター  
大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1  
TEL:072-957-2121  
FAX:072-958-3291  
HP:http://www.ra.opho.jp  
E-mail:kokyucen@ra.opho.jp

明けましておめでとうございます

院長 楠 洋子

希望が多い新年を迎えられたと思います。昨年は暮れに向かうに従って世界的な経済危機がいや増してきておりましたが、年が明け、少しでも希望がもてる年でありたいと願うばかりです。

年末年始、大過なく過ごせまして感謝いたしております。休み期間中も昨年開始しました人工透析の治療を続け、産婦人科の外来も開きまして、患者の皆様にはご不自由をお掛けせずに済みました。



昨今の医療事情には医療者側ならずとも一般の方々にもご心配をお掛けしていることと思います。地域の皆様方にご迷惑をお掛けすることなく、またそれぞれの専門の医療を受けていただけるように、ご希望に添えるような医療を目指していきたいと思っております。

その一環としまして、喘息、肺気腫や肺がんなどの専門内科への紹介患者様以外の呼吸器の総合初診外来を設ける予定です。またリハビリテーションを独立させ、従来行ってきました呼吸不全に対する呼吸リハビリ以外にも運動リハビリも充実していく予定です。マンモグラフィによる乳がん検診もご希望者が多く、予約が3ヵ月後になるなど多大なご迷惑もお掛けしておりますが、検診日の拡充や技師補充により緩和していく所存です。去年の10月からは、南河内北地域の小児科の休日診療をお手伝いさせて頂いており、小児2次救急の受け入れを開始しております。しかしアレルギー関連診療科（喘息などの内科や皮膚科）には多数の外来患者様に診療時間などでご迷惑をお掛けしていることと存じます。緩和策を講じていきたいと思っておりますが、それには地域の病院や開業医の先生方のお知恵を拝借しながら進めていきたいと思っております。

当センターからのお知らせやお願い事も多々あるかと思いますが、より良い医療を目指していくためにご容赦のほどお願い申し上げます。今後も皆様方のご意見やご希望をお聞かせ願えれば幸甚に存じます。

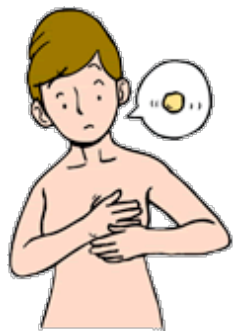
本年も皆様のご健康を祈念いたしております。

## 新設されました！

## 消化器・乳腺外科部長 堀井 勝彦

呼吸器・アレルギー医療センターの病院名からはその専門病院とのイメージをもたれる方が多いと思いますが、消化器・乳腺外科は羽曳野病院時代から脈々と続けられてきた循環器内科、産婦人科などとともに地域の皆様の健康の向上をめざして平成20年4月に新設されました。消化器ならびに乳腺疾患の診断から治療まで幅広く担当しております。

昨今カメラと細い鉗子を用いた腹腔鏡下手術が着実に拡がりを見せています。1～2cmの皮膚切開を3～5箇所つくり、その穴から腹腔鏡や鉗子などの手術器械を挿入し、おなかの中が映し出されたテレビモニターを見ながら手術を行います。キズが小さく美容的に優れ、手術後の痛みが少ないという利点を有しております。すべての病気が腹腔鏡下に手術できるわけではありませんが、当科では胃がん、大腸がん、肝臓がん、脾腫瘍、食道裂孔ヘルニア、胆石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア（脱腸）などに対して積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいます。



日本女性の乳がん発症のピークは40-50代にみられます。当科ではマンモグラフィー検査による乳癌検診に携わるとともに、異常所見のみられた方には超音波検査で精査し乳癌の早期発見に努めております。マンモグラフィー検査は検診制度管理中央委員会で認定された医師2人が読影を行い、超音波検査は超音波専門医や女性専門技師が行っています。もしも乳癌のみつかった場合には乳房温存療法を含めた手術療法とともに、進行度に応じて放射線科や腫瘍内科と協力して放射線治療や抗がん剤治療を行っております。乳癌の早期発見は自己検診が大切です。乳房に気になる場所があれば、いつでもご相談ください。

南河内の拠点病院となるべく地域の皆様方の信頼を得られるよう努めてまいります。

## 1月・2月の教室案内

- \* カンガルー教室 ● 1月21日(水)・28日(水) ● 2月18日(水)・25日(水) 午後1時半～
- \* 喘息教室・理学療法(小児科) ● 1月15日(木) ● 2月19日(木) 午後2時～

## <看護部の患者さまと共にシリーズ(1)>

医療の主役は「患者さま」

外来診療科



前回の「かわらばん」で、院長が「かかりつけ医を持とう」と推奨されました。当センターとかかりつけ医がうまく連携を行い、役割分担することで患者さまへより一層安心の医療が提供できます。

当センターの患者さまの多くは慢性疾患をお持ちの方です。私たち看護師は、患者さまが病気と折り合いをつけ、上手に酸素を使ったり、痛みをコントロールして毎日の生活が安心・安全に過ごせるようお手伝いします。

そのためには訪問看護ステーションとかかりつけ医と連携を持ち、必要な情報を患者さまに提供できるよう看護部では今年も地域との連携を推進していきます。

普段の生活のなかで困っていること、不安に思っていることなど看護師に相談してください。身体のことはもちろん食事のこと、排泄のこと、住居のこと、医療費のことなど何でもどうぞ！看護師で解決が見つからないときには、私たちが栄養士・薬剤師・ケースワーカーなど専門の人たちと連携をとります。一緒に考えていきましょう。



医療の主役は「患者さま」です。日常生活が「いつも通り」行えるように一緒に考えていきましょう。

訪問看護とかかりつけ医は今更面倒だと思いにられる患者さまやご家族の方もいらっしゃると思いますが、紹介状でスムーズな連携がはかれます。地域医療連携室にはいろいろな情報がありますので気軽にお立ち寄りください。

看護師は患者さまが少しでも安心して安全・安楽な生活が出来るようお手伝いしていきます！



## ●●咳エチケットを心がけましょう●●

咳・くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、

他の人から離れるようにしましょう

自分が感染しないため、感染症を他の人にうつさないためにも



**マスクの着用をおすすめします。**